

新聞販売所が見守り活動に協力

（株）丈越・下関新聞販売所と協定調印

村と村内全域を新聞の配達エリアにする（株）丈越・下関新聞販売所（野澤千登勢社長）は、配達員が業務中に村民を見守り、また、不法投棄や道路等の公共施設に異常を発見した場合は、村に情報提供する協定を締結しました。

村長は、「今後さらに高齢化が進むことを考えると村内全体で見守る体制づくりが必要であると考えていたので、ありがたい提案をいただいた」と話し、見守り活動が広がることに期待をしていました。村は、1月に郵便局とも同協定を結んでおり、これで早朝から日中の間、家庭訪問の機会が多い事業者と見守りに関する協定を締結したことになります。

3月16日に行われた調印式で野澤社長は、「以前から見守り活動には取り組んでいましたが、村と情報を共有することでより迅速な対応ができると考えている。村民のみなさんが安全・安心に暮らせるよう協力していきたい」とあいさつをしました。



下川口放流警報表示板更新 ～ 大石ダム放流を知らせる ～



3月16日、羽越河川国道事務所では、下川口地内にある放流警報表示板更新に伴う説明会を行いました。今までの表示板が20年経過し老朽化したことに伴う更新です。

今回の更新では、省電力化されたことにより約4割コスト縮減、視認性の向上により斜めからでも見やすくなりました。また、英語表記も行うことが出来るようになり、外国人にも伝わりやすくなりました。

説明会では、松平羽越河川国道事務所長が、「更新した放流警報表示板をあらためて確認していただき、大石川上流で大雨が降った場合には、速やかに避難を知らせ、安全・安心を確保していきたい」とあいさつをしました。

地元下川口集落から説明会に参加した伊藤清一さんは、「今までよりずいぶん見やすくなった。カラーで親しみやすいね」と話していました。

12年の伝統を引き継ぎ 新たな前進へ

春のよそおいに変わり始めた3月3日、関川中学校で「第12回卒業証書授与式」が行われ、47人が卒業の日を迎えました。

式では、在校生や父母が見守るなか、一人ひとりが壇上に上がり、山崎明校長先生から卒業証書を受け取りました。校長先生は式辞で「人間は誰もまだ知らないすばらしい力を秘めているもの。少しずつ歩み続けるカタツムリのように、自分の目標に向かってねばり強く成長していった欲しい」とはなむけの言葉を贈りました。

また、卒業生を代表して小田桜生さん（下川口）が「この3年間は楽しいことばかりではなく、いろんな壁にぶつかることができました。そんな時に助け合えたのは友達や同級生でした。かけがえない仲間たちとのすばらしい時間はいつまでも忘れないでいたいです」と述べ、思い出の学び舎を後にしました。



関川中学校卒業式

地域に根ざした病院づくり ～ 坂町病院健康ナイトスクール ～



2月24日、県立坂町病院の医師が講師を務めた講演会「坂町病院健康ナイトスクール“なじだねえ”」が村民会館大ホールで開催され、約80人が参加しました。これは、医療情報などを発信することにより、地域住民の健康増進や介護予防の促進を目的として開催されたものです。

講演は、同病院の鈴木薫院長や近幸吉副院長、小柴庸一薬剤部長が講演を行いました。

嚥下と誤嚥性肺炎について講演をした近医師は、「肺炎は死因の第3位になっている。多くは高齢者の誤嚥性によるもの。飲み込みの反射が弱まらないようにすることや口の中をきれいにすることなどが予防につながる。肺炎球菌ワクチンの接種も高齢者にとっては大切な予防になるので、ぜひ接種して欲しい」と話しました。参加者たちは、実際に飲み込みをよくする嚥下体操の指導を受けるなど、肺炎予防に対する知識を高めていました。

飯豊連峰を囲む3県山岳 遭難対策合同会議を開催

2月23日、新潟、山形、福島県にまたがる飯豊連峰の登山者の遭難対策を話し合う「飯豊連峰を囲む3県山岳遭難対策合同会議」が村民会館大ホールで行われました。関係する3県8市町村の警察、消防、山岳会など約70人が集まりました。

会議では、新潟県警地域課玉木大二郎課長補佐が講演し、過去の遭難救助で体験したリングワンダリング現象（環状彷徨）を説明。平坦な樹林帯で暗闇などにより視界を失うと、水平方向の光だけでは進行方向が特定できず、同一エリアを2周もした経験を伝えました。

各県からの事例報告では、村上警察署から管内の発生状況が報告されました。昨年、3件で1人が死亡、2人が軽傷を負う遭難が発生し、うち1件は、大石地内机差岳西俣コースで発生したものでした。各地域から、救助訓練の取り組みや最近発生するバックカントリースキーによる遭難の注意広報の活動などが報告されました。



3月12日、村民会館アリーナを会場に「ふれあい福祉健康フェア＆康フェア&エンジョイ！生涯学習広場」が開催され、大勢の来場者で賑わいました。

ふれあい福祉健康フェアでは、福祉用具体験や介護予防運動体験、村内の福祉施設や団体の活動状況紹介や作品が展示されました。ここところからだの健康コーナーでは、来場者が脳年齢や骨密度測定、ストレスチェックなど、各種測定を行い、健康に関する関心を高めていました。

ふれあい福祉健康フェア& エンジョイ！生涯学習広場



また、生涯学習広場では、シルクフラワーで花束作りや射的、ダーツなどを揃えた「エンジョイ！屋台村」に親子ずれがたくさん訪れ、夢中になって楽しんでいました。

教育長がそろえた難問バズルに挑戦した津野瑞貴さん（小学4年・下関）は、「難しかったけど、答えを見つけた時と正解と言われた時は、嬉しかった。楽しかったです」と笑顔で話してくれました。